

山梨県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況について（2024年）

山上 隆也

Streptococcal Toxic Shock Syndrome in Yamanashi Prefecture

Takaya YAMAGAMI

キーワード：劇症型溶血性レンサ球菌感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染症発生動向調査

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS : streptococcal toxic shock syndrome) は、溶血性レンサ球菌の毒素産生株が血液、脳脊髄液など通常無菌的な部位に感染することで突然に発症し、敗血症、多臓器障害などを引き起こす重症感染症である。感染症法に基づく感染症発生動向調査において、全数把握の5類感染症に定められており、診断した医師は7日以内に保健所に届出することが規定されている。

2024年に全国で報告されたSTSSの患者報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり¹⁾、山梨県でもA群溶血性レンサ球菌 (GAS : group A Streptococcus, *Streptococcus pyogenes*) による重症感染症の増加がみられた²⁾。そこで今回、2024年に山梨県内で発生届出のあったSTSS症例について集計、解析したので報告する。

対象と方法

感染症法に基づき届出のあったSTSS症例で、診断日が2024年1月から12月のものを対象とした。発生届記載事項（性別、年齢、臨床症状、検査診断方法、原因菌）を感染症発生動向調査システムから集計し、解析した。

原因菌がGASである症例では、厚生労働省通知³⁾に基づき、医療機関等から分離菌株を収集して菌株解析を行った。菌株解析は溶血性レンサ球菌レファレンスセンター（国立感染症研究所細菌第一部）で行った。

成績とまとめ

1 年次別患者報告数の推移

山梨県におけるSTSS患者報告数は16例であり、前年（3例）から5倍以上増加した。全国と同様、最近5年間で最も多い報告数であり、増加傾向で推移していることが示唆された（図1）。

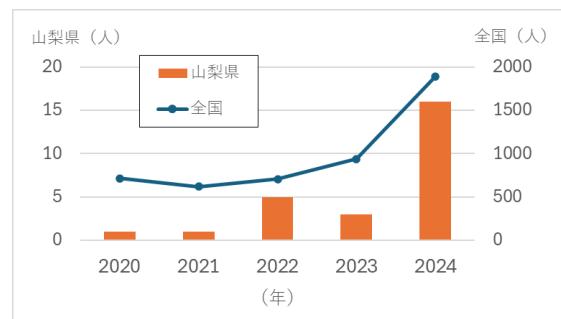


図1 年次別報告数(2020～24年)

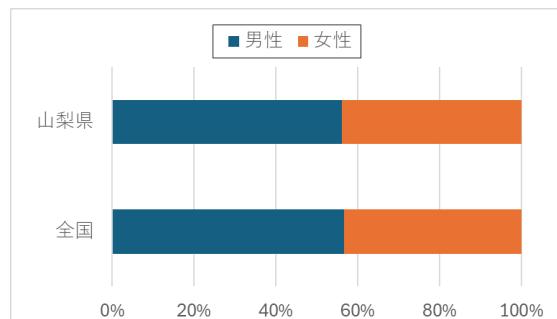


図2 性別患者報告数

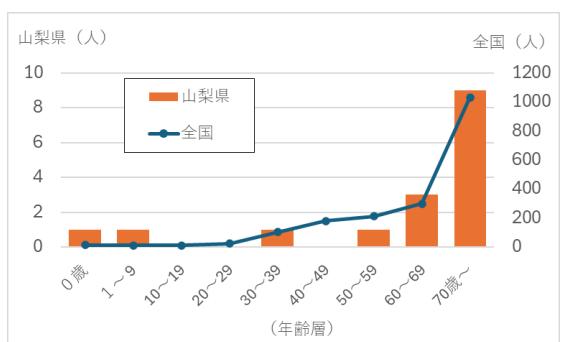


図3 年齢層別患者報告数

2 性別・年齢層別患者報告数

患者の性別は、男性（山梨県 56.3%、全国 56.6%）が若干、多い傾向がみられた（図2）。年齢層別では、70 歳以上（山梨県 56.3%、全国 54.6%）の年齢層が最も多かった（図3）。いずれも、山梨県、全国ともに同様の傾向であった。

3 臨床症状

届出基準では、ショック症状に加えて、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、血液凝固異常、軟部組織炎（壞死性筋膜炎を含む）、全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失などの中枢神経症状のうち2つ以上を伴うこととされている。

ショック症状以外の臨床症状では、腎不全（10例）、軟部組織炎（9例）が多く、半数以上で認められた（図4）。

4 検査材料・分離菌株

届出基準では、血液、髄液、胸水、腹水など通常無菌的な部位、生検組織、手術創、壞死軟部組織等からの分離・同定による病原体の検出が必須である。菌分離材料（重複あり）としては、血液（11例）が最も多く、次いで壞死軟部組織（5例）、胸水（2例）、その他（2例）であった。

分離された溶血性レンサ球菌の Lancefield 分類は、A 群（11例）が最も多く、次いでG群（3例）、B群（2例）であった。このうち、菌株の得られた GAS 4 株の菌株解析結果を表1にしめした。2010 年代に英国で流行した病原性および伝播性が高いとされる M1_{UK} 系統株⁴が1株確認された（表1）。

5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎との関連

STSS の主要な原因菌である GAS は、A 群溶血性レンサ球菌(GAS)咽頭炎(小児科定点把握5類感染症)の原因菌でもあり、STSS 患者数の増加と GAS 咽頭炎流行との関連性が指摘されている²。

そこで、山梨県における STSS の発生時期と GAS 咽頭炎の週別患者報告数の推移とを比較した結果、GAS による STSS の発生時期は GAS 咽頭炎の多い時期と概ね一致した（図5）。

両者の関連性をより明らかにするためには、GAS 咽頭炎

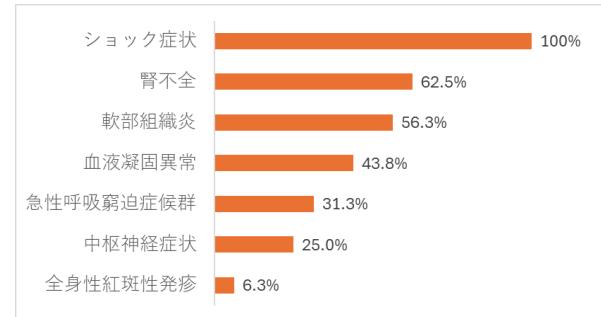


図4 臨床症状

表1 菌株解析結果

菌株	T血清型	emm 遺伝子型	M1 lineage	発赤毒素遺伝子			
				speA	speB	speC	speF
A	T12	emm12		-	+	+	+
B	T1	emm1	M1UK	+	+	+	+
C	T12	emm12		-	+	-	+
D	型別不能	emm76		-	+	-	+

+ : 陽性 - : 陰性

患者からの分離株を含め、継続的な菌株解析データの蓄積が必要と思われる。

参考文献

- 厚生労働省:「劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)」[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html] (最終検索日:2025年9月1日)
- 藤井 充ら:山梨県における A 群溶血性レンサ球菌感染症入院例に関する実地疫学調査, 病原微生物検出情報月報, 46, 23-24(2025)
- 厚生労働省感染症対策課:「劇症型溶血性レンサ球菌感染症の分離株の解析について」(令和6年1月17日付、感感発0117第5号)
- Lynskey NN, et al.: Emergence of dominant toxigenic M1T1 Streptococcus pyogenes clone during increased scarlet fever activity in England: a population-based molecular epidemiological study, Lancet Infect Dis., 19, 1209-1218(2019).

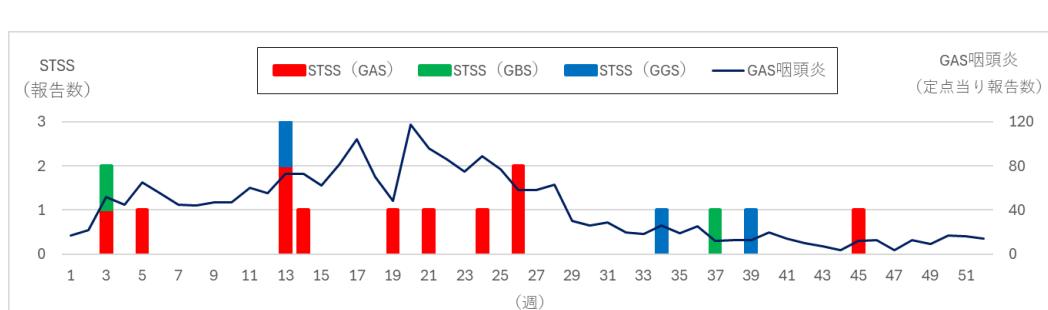


図5 STSS, GAS 咽頭炎の週別発生状況